寅さん賛歌　2023.10.02

”知”の責任とは、常に”腑に落ちる”物言いをすることだろう。時代はいつも的確な発言を求めている。小林秀雄は、世間が”一億総懺悔”と騒いでいる時『利口な奴はたんと反省するがいいや』と言った。

“男はつらいよ”は大好きな映画だが、ここでの人間模様は語り方で幾らでも深刻になるものだ。しかし山田洋次は、『生きるって事は満更捨てた物じゃないよな』という感想を観客に持ってもらうことを目指すと言っていた。”寅さん”は彼が渥美清に託して作り上げた架空の人物だが、生身の人間より一層切実な象徴的な人間といえよう。

人は常に等身大から世界規模の様々な出来事に直面している訳だが、その時”寅さん”だったらどんな言葉を発するかどう処するかどう迷うかを想像するとそれは”大衆の原像”として殆ど過たないのではと思う。

“とらや”の茶の間に集まった面々を前に寅さんが語る”アリア”は真実を越えて美しいとさえいえる。”よせやい”と言われぬよう生きねば。